

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 三菱ガス化学株式会社	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2三菱ビル
----	---------------------------	----	---

本票作成	部署名：三菱ガス化学株式会社 水島工場 研究技術部
------	---------------------------

主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業
-------	-------	----	----------

事業の概要	キシレン類の異性化・分離及びその誘導体の製造。(キシレン類生産能力 630,000t)
-------	---

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	水島工場	倉敷市水島海岸通3-10

特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数(②該当の場合) 台)
------------	--

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 29 )年度排出量	目標年度(平成 29 年度)
	412,118 t CO <sub>2</sub>	411,178 t CO <sub>2</sub>	399,754 t CO <sub>2</sub>

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 29 )年度排出量
	①	水島工場	411,178 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：	平成 27 年度	～	平成 29 年度	( 3 箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 29 )年度削減実績	目標削減率	目標達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	29.7 %	3.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達	

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 製造業として事業拡大等もあり、コントロールできる数値として生産数量を採用し、GHG排出量/生産数量=原単位で算出しています。	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 29 )年度	目標年度
		0.621 t CO <sub>2</sub> /( t )	0.437 t CO <sub>2</sub> /( t )	0.603 t CO <sub>2</sub> /( t )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 29 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

平成29年度は、前年と比較して生産数量が改善し約16%増加した事で、温室効果ガス排出量は前年度比約3%増となったが、改善活動及び生産数量増加による生産効率向上が寄与し、削減目標基準としている温室効果ガス原単位は前年度比約12%改善した。平成29年度は3箇年計画の目標年度となるが、目標原単位削減率3.0%に対し実績削減率は約30%と目標を大きく上回る削減を達成。省エネルギー活動は、継続して実施しており、引き続き確実に実施していく。

**【推進体制】**

工場のエネルギー管理体制にて、全社的なGHG削減目標／RC目標に基づく目標設定を行い、個々のテーマについてはTPM活動における省エネルギー（個別改善）において取り組んでいます。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
水島工場	<p>主力製品のキシレン類の異性化・分離のプロセスに関しては、『省エネルギー化』のプロセスの検討しています。</p> <p>工場としては、個別改善活動を通じ、装置の省エネルギー化の個別改善を継続的に進めています。平成29年度は、テーマ毎積算で約9,800<sup>t</sup>-CO<sub>2</sub>/年の削減を達成しました。（蒸気の有効活用、運転最適化等）</p> <p>また、現在取り組んでいるテーマとして、下記項目があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①ボイラー運転最適化（低負荷運転時の最適化）</li><li>②蒸気タービン運転最適化（運転最適化による発電量最大化）</li><li>③各製造課蒸気の有効利用（余剰蒸気の有効利用、低負荷時の最適化）</li></ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

--